

---

# コドク

要徹

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

コドク

### 【Nコード】

N15210

### 【作者名】

要徹

### 【あらすじ】

「ああ、家族や友人に恵まれた幸せな人生だった」

私の人生は、もうすぐ幕を下ろす。具体的な論拠はないが、直感的にそう思えるのだ。何せ、体はもうぴくりとも動かないし、瞬きすることすら苦痛で、息をすることすら痛みを伴う。

死がもう間近に迫っているというのに、ちつとも怖くはない。私は多くの友人に恵まれたし、両親にも愛情を持って、大事に育てられてきた。良い妻にも恵まれ、五体満足で元気な子供たち二人に囲まれて、筆舌に尽くし難い幸福に包まれた人生を送ってきた。人生において、何一つとして不自由だと思ったことはない。人間というものには幸と不幸が半々で存在するのだというが、私はあまりにも幸福すぎた。だから、この死くらいは心安らかに受け入れることができる。

それに、ほら。私の周りには多くの家族が、そして友人たちが看取ってくれているではないか。ここで泣けば、きっと彼らも泣く。そんなこと、望んじやいない。幸せを与えてくれた彼らに報いる為にも、泣いてはいけないのだ。悲しみの深淵へ、彼らを落としてはならないのだ。

けれど、この目頭の熱さは何なのだろうか。今にも大粒の涙が枯れた皮膚の上を流れそうで、くしゃくしゃの唇がわなわなと震えて止まらない。必死にそれを抑えようとするのだが、まるで何かにとりつかれたかのように、体が言うことを聞いてくれない。

やめてくれ。私は涙を流してはならないのだ。今、彼らの涙を見れば、私はきつと死ねなくなる。でも 抑えられない。

大粒の涙が乾燥した肌を伝って落ちる。ぼろぼろと、ダムが決壊したかのように涙が溢れてくる。駄目だ。どうしても止められない。これでは、家族が、友人が、泣いてしまう。

私が泣き始めたのをきっかけに、彼らもまた、わんわんと泣き始めた。胸に、未練が湧き起こってくる。こんなこと、望んでいない。

頼む。お願いだから、涙を止めてくれ。

妻の手をぎゅっと握ると、彼女が言った。

「お父さん、泣いても良いんですよ」

涙で視界が歪み、何も見えなくなる。だが、分かる。彼らが必死に笑顔で私を見送ろうとしていることが。ならば、私も笑おう。口角を上げ、彼らに微笑みかける。そして、最後の言葉を呟く。

「今まで、本当にありがとう」

ああ、本当に幸せな人生だった……。

老人の住んでいたアパートの管理人の通報により、彼の死は警察に伝わった。警察の捜査により、老人の死は老衰であると断定。事件性はないと判断された。

遺体が運び出される直前、警察関係者の間で次のような会話が交わされた。

「死因は老衰か。事件性はないんだな」

「ええ、管理人さんが発見した時には、既に死亡していたようです。それに、特に不審な点は見当たりませんしね」

ある刑事が唸る。

「いや、一つあるだろう。何で、この老人はこんなに幸せそうな顔をしているんだ。そこが不思議でならん」

「きつと、家族や友人に囲まれて死ぬ夢を見ながら死んだんでしょ。でも実際には……」

「……誰も、来なかったんだな」

（後書き）

孤独死だけは、絶対にしたくありませんね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1521o/>

---

コドク

2010年10月9日17時41分発行